

## 平成29年度 第2回 北区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

- 1 日 時 平成29年8月4日（金） 午後2時00分～午後3時20分
- 2 場 所 北区役所2階 第2～4会議室
- 3 出席委員 （敬称略、五十音順）  
石橋敏郎、石村美生見、入江雄二、上野祥子、小柳高子、境俊次、  
竹熊千晶、田上信行、平野久美子、松嶋令子、松野はるみ、  
宮原栄志、村上智弘、吉橋謙太郎 （以上、14名）
- 4 傍 聴 0名
- 5 会議次第
  - （1）開会
  - （2）北区長挨拶
  - （3）報告及び議題
    - ① 第1期、第2期まちづくり懇話会の意見内容について
    - ② まちづくりセンターの活動状況等について
    - ③ 北区管内で地域担当職員に寄せられた要望相談について
    - ④ 次回懇話会の進め方について
    - ⑤ その他
  - （4）閉会
- 6 会議（要旨）次のとおり

## 会議（要旨）

### （１） 第１期、第２期まちづくり懇話会の意見内容について（意見交換、質疑応答）

（議長）

１期２期は２０００万円の使い道について議論してきたが、３期は予算に関係なく、こういうことが必要だとか、こういう試みをやろうなど自由に議論していただくことを前提に皆さんに議論していただく。

### （２） まちづくりセンターの活動状況等について

### （３） 北区管内で地域担当職員に寄せられた要望相談について（意見交換、質疑応答）

（委員）

地域での様々な活動をまちづくりセンターに報告した方がいいか。

（事務局）

そういう情報をいただければ、皆様方に紹介できると思います。

（議長）

是非ともまちづくりセンターへ状況を報告していただければありがたい。

（委員）

地域の保全隊が、河川敷の草切りや市道沿いのゴミ拾いを子ども達と行っている。大雨や地震の際は、保全隊が見回って、倒木の整理などをするようになっている。そういう組織と連携すればより効果があがると思う。

（委員）

医療介護におけるまちづくりについて、まちづくりセンターと地域包括支援センターの役割を分けられているのか、それとも協働して取り組むのか。

（事務局）

協働して取り組んでいこうと思っている。先行的に始った北部まちづくりセンターでは、包括まちづくりという名称で、自治活動と包括ケアの方々と話し合いの場を持つなど、共に地域課題にそれぞれ役割を果たしながら、取り組んでいきたいと考えている。32：43

(委員)

地域には多くの組織があるが、みんな自治会に統合して、自治会を主体にいろんな組織が動けるようにすれば、連携の効果が出てくると思う。その方向で検討していただきたい。

(議長)

組織の統廃合になると大変だが、少なくとも組織の連携を保つ、お互いの活動を知る、そういう仕組みはやはり必要。

(委員)

たくさんの課題、いろいろな行事がまちづくりセンターに集まっていることを、初めて知った。時々、まちづくりセンターへ行くが、何かある毎に一番になって職員の方が出てきている。私たちも早くしないと、手伝わないと思いつつ、後ろから付いていく有様で、感謝している。

(議長)

要望を見るとかなり個別性が高い。まちづくりセンターが出かけて行って、そういう意見をいただいている。区役所に来るのは大変だから、そういう意味では効果があると思う。

まちづくりセンターへの相談件数が、この調子で伸びていくと、職員一人で地区を担当して大丈夫かと思う。すぐに人を増やすということも難しいので、こういう傾向だということを理解しておく。

要望は、集会があるときに出かけて行って、聞いた内容がほとんどか。それとも個別的に訪ねて聞きくのか。

(事務局)

4センターそれぞれと思うが、朝の挨拶運動時、自治会長の定例会、自治協の定例会や来所させていただいている。個人的なもので電話の場合もある。

(委員)

予算があれば行政でやってもらってもいいだろうけど、予算状況も厳しいので、自治会を主体に、自分たちが住んでいるところは、自分たちが出来るところまでやろうという気持ちを盛り上げることも大切。若い人の中でも出来るだけ協力しますという人が出てきている。そういう機運を高めるのも必要。

(議長)

行政にできることは限界がある。見守りなどは行政では出来ないなので、地域の方の力を借りないとならない。地域の方が、自分に何が出来るか、無理をしない程度にそれぞれ言っていたらと、うまく支え合いの地域づくりというのが出来るかもしれない。

(委員)

いろいろな団体が地域で活動をしているが、広報が大変である。自分たちで、自治会に回覧を依頼するなどやっているが、情報をもっと大きく広がればいいと思う。例えば、まちづくりセンターに情報を持って行ったときに、その地域に関しては広報をしていただけるなどの仕組みがあれば、それぞれがやっている情報が、もっと広がるのではないかと思う。

(議長)

どこでどのような活動をやっているかを知らない、それをどうやって教えるか、知らせるか。コミュニティ放送があれば広報するのに一番いいが。お宝マップ（幸せ絵巻）に活動マップを加えて、ここでこんなことをやっていますということができればいいが、重要な事だと思うので、考えていきましょう。

(委員)

活動の内容を簡単な様式で集めていくと、活動の繋がりもできてくると思う。データベースに集めて、若い人に SNS で発信すると、まちづくりにも少し手伝ってくださるなど、みんなのつながりも見えやすいかもしれない。

(委員)

普通、誰が何をしているか分からないので、地域の会長・役員になった人くらいは、地域が今どう動いているか、どういうことをしているか、どのような悩みがあるのかということ共有するため、小中学校の校長・PTA、いろんな団体の会長・役員、自治会長、全て集めて、大体 30 名の団体の長の方でまちづくり委員会を 3 ヶ月に 1 回開催している。そこで各団体の行事などの一覧表を作って、これは老人会と一緒にやりたい、女性の会に加勢してくださいなど、非常にいい動きになってきている。

去年あたりから増えてきたのが共同開催。コミセンで健康まつりをやっているが、女性の会に手伝いを願い、社協、民生委員、老人クラブいろいろな方に手伝ってもらい、参加してもらえる。多くの人を巻き込んでやると、地域全体は活性化すると思う。

植木の方は、農業が盛んで生産者の方が多く、清水や龍田の方は消費者の方が多い。グリーン・ツーリズム事業があるが、特に龍田、清水の方に参加してもらおうと、同じ北区内でつながりや交流ができ、いい形ができると思う。

(議長)

活動内容の公表だけでなく、上手な組織づくり、うまい組織間連携のやり方の紹介もいかかもしれない。このやり方が上手と思えば、真似してもらうことが出来る。事例集みたいなものを考えましょう。

(委員)

子育てネットワークは、子育てに関係する団体全てと結んでいるので、いろいろなところで活用していただきたいと思っている。

小さな絆をつくって、いろいろな人たちが集まり、巻き込んで、ネットワークとして発信していくことが大事。皆のことを知ることが、まず、地域のことを知ることだと思う。

(委員)

私の校区でも、それぞれに行事をやっているが、昨年度から他の団体とコラボしながら、地域の中でいろいろな行事をやっている。そうすることによって、校区の方々が、いろいろな形で知っていただく、一つのきっかけになると思う。

地域課題の中に、話し合いで解決すると思うこともあると感じている。例えば、私の校区では川の清掃活動を行っているが、草刈やゴミの処理は行政にお願いしている。校区で出来ることは、校区でやっていくことも大事だが、行政が行うところは、行政と連携して進めていくことも大事と思う。

(議長)

合同開催は効果的かもしれない。合同でやった方が、効果が上がる場合は、是非ともやってみましょう。

(委員)

インターネット社会で閲覧している人が多く、経費もかからない youtube を活用してみてもどうか。自治会や地域活動の紹介、参加の呼びかけなどを動画で公開すると文書を読むよりも視覚で見た方が効果的と思う。尚綱大学や保健科学大学にパソコンに詳しい学生がいると思うので、学生の目線から取材するといいい情報も出てくると思う。

(議長)

近代的な技術を使うこと、これも一つの手です。

(委員)

地域とは何かと考えた時に、私が頭に浮かぶのは人です。人から物ができて、それから他に変わっていく。植木には、優秀な技術などを持った方がたくさんいらっしゃるし、まだ 60、70 代で元気。「だったらそれを活かしてみましようか」という話をしたら、是非にということで、その方たちが出来ることと、一般の皆さんたちの技術を継承する寺子屋事業の立ち上げを思いました。北区では初めての試みなので、コンパクトに植木地域で、モデル地区として行い、成功すれば少しずつ広めていく。地区から始めて、「ずーっと住みたい わがまち北区」に結びつける仕組みができないだろうかという計画になっている。

(議長)

北区にいろいろな技術を持った人、特別な才能を持った人がいるから、まちづくりセンターは、そういう方を探して、人材バンクを作ると絶対に役立つと思う。だから、これも考えましょう。これは、正にまちづくりセンターの役割ではないか。

#### (4) 次回懇話会の進め方について (意見交換、質疑応答)

(議長)

次回からは、班を作り、班ごとにじっくり議論をしていただき、その結果をここにあげていただく。こういう形でやらせていただきたいと考えているがいかがか。

(各委員)

はい。(了承)

(議長)

(担当する分野は)皆さんの希望があると思うが、希望を聞くと、どうしても偏るので、事務局に分けていただくということよろしいか。

人材の確保や人材の育成は、すべての分野に関わる。それから、文化財などは、2班(健康、福祉、文化、スポーツ)だけが扱うのではなく、環境・景観も関係があるので、重複しても結構です。大体、こういう枠で議論していただくということです。大体1班、5人くらい、学生・事務局職員が入り、8、9人くらいです。いろいろな意見を予算のことを考えずに、でっかいこと言われて結構なので、なんでもアイデアを出していただきたいと思う。

(委員)

議論したことを、その日に発表するのか。

(議長)

発表は、4回目(次)の懇話会でと考えている。3回目が出た意見を4回目の懇話会で報告していただくという形をとりたい。

この班については、誰にどの班をお願いするというのは、事前に知らせた方がいい。(事務局：事前にお知らせします) そうすると、多少、調べて来ようということもあるかもしれない。